

「コーストウォーク ～海岸線から見る情景～」を登録しました

図社会教育課（☎ 82-1203）

山陽小野田市
ふるさと文化遺産

「コーストウォーク～海岸線から見る情景～」の物語

詳しい物語の内容は、市ホームページに掲載しています。



コーストウォーク

～海岸線から見る情景～

山陽小野田市域の全ての海岸線は瀬戸内海に面しており、市内中央部には厚狭川、有帆川が流れています。その海岸線沿いや河川沿いには、太古からの自然や、古墳時代から現代に至る市の歴史と風土を知るうえで貴重な文化財が数多く残されています。

秋に海岸線を約 30km 歩く「スマイルコースト・ウォーク」というイベントがあり、そのコースに沿って海岸線を 5 つに分け、特色あるそれぞれの地区の歴史や文化財を紹介しています。各地区の歴史を知ることによって、これまで気が付かなかった新しい視点から情景を感じることができるストーリーとなっています。

埴生・津布田

埴生地区や津布田地区は、山陽小野田市の中でも古い歴史を持つ地区の一つで、「糸根の松原」（写真①）や「平松 1 号古墳」（写真②）が今も残っています。この地区の海岸線からは、対岸の九州や関門海峡に架かる関門橋を眺めることができ、津布田海岸付近では消波ブロックが横一列に並んでいる等、海岸線ならではの風景を見ることができます。今見ることでできる景色は、この地区がたどってきた歴史に結びついています。



厚狭川河口

厚狭川河口付近はほとんどが江戸時代以降に造成された開作地で、昔と変わらない開作地の風景が広がっており、古開作溜池や厳島神社（写真③）等、開作に関連する神社や記念碑等があります。また、厚狭川橋からは厚狭川河口の広い干潟が見え（写真④）、堤防からは川の中洲やため池に集う野鳥の様子が観察できます。

有帆川河口

有帆川河口には有帆川大橋が架かり、左岸には日産化学株式会社小野田工場が、右岸には高泊開作築成時に造られた一直線の土手（横土手）や縄地ヶ鼻があり、まさに小野田地区の歴史が一望できます。また、川沿いでは硫酸瓶を運んでいた船着き場跡を見ることができます（写真⑤）。



小野田

現在の小野田地区の海岸線は、江戸時代以降に開作や干拓によってできたもので、それ以前は一面の海でした。明治以降、セメント会社を始め多くの工場が建てられ、市街地化が進んだ地区でもあります（写真⑥）。また、昭和 17 年の台風 16 号（周防灘台風）では特に被害の大きかった地区でもあり、周防灘に面する堤防が決壊し、その時は市街地が一面海と化しました。

木戸刈屋から本山海岸

木戸刈屋は竜王山の北西にあり、海岸沿いの山肌に民家が並ぶ、昔ながらの町並みが残っています。また、大浜や本山には、昭和初期以降に栄えた炭鉱の遺構があり（写真⑦旧本山炭鉱斜坑坑口）、「炭鉱のまち」の名残があります。